



自然遊学館

だより

2009 SPRING



No.51



■2009.4.22 発行 貝塚市立自然遊学館

■行事レポート

- 春の七草摘みを蕎原で1
- 冬の二色の浜打ち上げ貝採集1
- 冬の雑木林・
 - 千石荘周辺バードウォッチング3
- 自然遊学館の友だち集まれ5

【泉州生きもの歳時記】

- バッタの越冬 6
- 二色の浜の海藻 6

■館長コーナー

- 春4. 自然を食べる 7

■展示紹介

- 自然遊学館周辺の植物
 - 2009年1月～3月に展示した植物9
- 自然遊学館で飼育している動物9

■寄贈標本の紹介10

■ごあいさつ13

■ありがとう14

■おしらせ16

表紙の写真：アカウミガメ。大阪湾に生息する。

■行事レポート

春の七草摘みを蕎原で

場所：蕎原ほの字の里周辺

日時：2009年1月6日（火）10:40～13:30

参加者 45人

結局は欠席だったという1組を待っていたために、定刻を少し過ぎて行事を開始しました。参加者数が多いので2班にわけ、先発班は湯浅幸子が、後発班は白木江都子が担当することにしました。集合場所の蕎原バス停付近ではハコベ・ナズナだけだったので、ノキシノブ・マメヅタ・クサイチゴなど目につく植物を紹介しながら歩きました。クサイチゴはいつも子どもたちに大人気で、よく熟れたイチゴを食べようと真剣に探していました。風もなくそれほど寒くもなく、1月初めにしては穏やかな日です。気持ちは和み、のどかな七草摘みです。



水田畦で七草を摘む参加者

ハハコグサは、白木と湯浅が下見に行ったとき、田んぼの畦道に5株ほど見つけたに過ぎず、一つの班に2株ほどを割り当て

にして分けあってもらおうと決めていましたが、さすが大勢の目があると次々見つかかり、結果的には小さな株ながら1家族に1個体ずつは当たったようです。

都市内の緑地に普通なナズナが、例年蕎原では少なく困るのですが、今年は畦の所々に生えていて、目の早いお母さんたちが見つけてくださり、これも皆さんに十分当たりました。白木班にはガールスカウトのメンバーが多く、植物採集は初めてという人が多かったのですが、しっかりメモる人や質問する人も多く、にぎやかな楽しい半日でした。

行事計画後、平日の水鉄バス運行が中止になり、参加を断念した方もおられたのがお気の毒でした。

（白木 江都子）

冬の二色の浜 打ち上げ貝採集

場所：近木川河口右岸

日時：2009年2月14日（土）13:00～15:30

参加者：41名

自然遊学館玄関前に集合した後、そぞろ歩きで約10分、近木川河口右岸の海岸に到着しました。冬場の北西風は、「貝寄せの風」とも呼ばれ、海底の貝殻や生貝までもが岸に打ち上げられます。この日は2月にしては、おだやかな暖かさでしたが、やはり海辺に吹く風は冷たさを感じるなかでの採集会でした。

波打ち際に平行して帯のように溜まった幾種もの貝がらを参加者の皆さんは丹念に

拾い集めていきました。サクラガイは薄紅色のその綺麗さから、参加者の人気が高い貝ですが、例年に比べて多く打ちあがっていました。



打ち上げの中から貝殻を探す参加者

また、「なんですか、この得体の知れないの？」と女子高校生が拾ってきた 5cm 程の軟体動物は、返答するのにしばらく頭を悩ませましたが、ウミフクロウが打ち上げられて白っぽくなったものでした。この場所での打ち上げとしては初記録でしたが、その後、10 個体ほど見つかりました。

採集した貝（軟体動物）は淡水産や陸産のものやコウイカの一部を含め 60 種類になりました。本日観察できた打ち上げ生物のリストを右に載せています。



打ち上げ生物の記録を取る様子

近木川河口右岸前浜の打ち上げ生物リスト

2009/2/14 自然遊学館観察会 参加者41人 講師：児嶋 裕

		和 名	
貝 類	多板綱	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ rr
			ヤスリヒザラガイ rr
腹足綱	ヨメガカサガイ科		ヨメガカサ rr
		ユキノカサガイ科	コウダカアオガイ rr
		クモリアオガイ rr	
	ニシキウス科		コシダカガンガラ r
			イシダタミ r
			チグサガイ rr
	サザエ科	サザエ rr	
	フトヘナタリ科	フトヘナタリ rr	
	タマキビ科	タマキビ r	
	カリバガサガイ科	シマメノウフネガイ c	
タカラガイ科	ナツメドキ rr		
タマガイ科		ツメタガイ c (L)	
		ハナツメタガイ r	
		アダムスタマガイ rr	
		ネコガイ rr	
イトカケガイ科	クレハガイ rr		
アツキガイ科		レイシガイ r	
		イボニシ r	
		アカニシ r	
フトコロガイ科	ムキガイ r		
ムシロガイ科		ムシロガイ rr	
		アラムシロ r	
トウガタガイ科	ヨコイトカケギリ rr		
キセワタガイ科	キセワタガイ rr (L)		
ブドウガイ科	ブドウガイ rr		
ウミフクロウ科	ウミフクロウ r		
カラマツガイ科		キクノハナガイ rr	
		カラマツガイ r	
二枚貝綱	フネガイ科	カリガネガイ c	
		サルボウガイ c (L)	
イガイ科		ムラサキイガイ r	
		ミドリイガイ r	
		ヒバリイガイ rr	
		ホトギスガイ c (L)	
ハボウキガイ科		ハボウキガイ rr	
		タイラギ r	
ナミマガシワ科	ナミマガシワ c		
イタボガキ科	マガキ cc		
ツギガイ科	イセシラガイ rr		
ザルガイ科	トリガイ r		
バカガイ科	バカガイ r (L)		
チドリマスオ科	クチバガイ rr		
ニッコウガイ科		サクラガイ c	
		ヒメシラトリガイ c (L)	
キヌタアゲマキ科	キヌタアゲマキ rr		
マテガイ科	マテガイ rr		
イワホリガイ科	ウスカラシオンガイ r		
マルスダレガイ科		カガミガイ r	
		アサリ cc (L)	
オオノガイ科	オオノガイ rr		
クチベニガイ科	クチベニガイ rr		
キヌマトイガイ科	ナミガイ rr (L)		
ソトオリガイ科	オキナガイ rr		
淡水産	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ r	
陸産	オナジマイマイ科	キュリキマイマイ rr	
	キセルガイ科	コンボウキセル rr	
	アズキガイ科	アズキガイ rr	
	頭足綱	コウイカ科	コウイカ科の一種 r
節足動物	甲殻類	イワガニ科	モクスガニ r
			イソガニ rr
			ヒライソガニ (ケアシ型) rr
	ガザミ科	タイワンガザミ r	
環形動物	多毛類	ナナテイソメ科	スゴカイイソメの棲管 r
		カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ類の棲管 r
棘皮動物	ナマコ綱	マナマコ rr (L)	
星口動物	スジホシムシ科	スジホシムシモドキ rr (L)	
		計	68

凡例：数量……cc 多数、c 普通、r 少数、rr ごく少数 (L)…… 生体確認

(山田 浩二)

冬の雑木林

千石荘周辺バードウォッチング

場所：千石荘・近木川河口

日時：2009年2月22日（日）

10:00～12:30 千石荘

13:30～15:00 近木川河口

参加者：46人（午後19名）



すごいぞ、オオタカだ!

穏やかな天候に恵まれました。川村自然遊学館長の挨拶、ふだんから千石荘だけでなく市内の野鳥を熱心に観察し、情報を自然遊学館に届けてくださる食野俊男さん・石井葉子さんという強力なお二人の鳥ガイドと自然遊学館スタッフの紹介、講師にお招きした大阪市立自然史博物館学芸員・和田岳さん紹介の後、カンコ池に向かいました。

さっそくシジュウカラやウグイスのまだぎこちないさえずりが聞こえ、和田さんを含めて今年始めて聞いた、という人も多くいました。渡りをせず冬を日本で過ごす鳥たちは、もう繁殖シーズンに入っており、なわばり宣言のためにさえずるのだそうです。子育てをする鳥で私たちになじみのあるツバメは、鳥の中では繁殖が遅いほうということです。

歩き始めて5分ほどで、すぐ近くの枝にとまっていたオオタカの♀を発見。私たちが近づいてもまったく動じず、こちらを見下ろしています。タカのなかまは♀が大きいのが特徴ですが、近くで見ると本当に迫力があります。用意した望遠鏡を交代でのぞき、堂々とした姿をほぼ全員が観察する

ことができました。こうした大人数の行事で猛禽を全員で見られるのは珍しく、カメラ持参の人は夢中でシャッターを切っていました。はじめてバードウォッチングに参加した方は、突然の幸運に興奮気味です。

鳥ではなくなぜかコナラやアベマキ、クヌギのドングリひろいに夢中になっていた子どもたちが、割れたハゼの実を見つけて教えてくれました。こんなに堅い殻を割れるのはシメでしょう、と和田さん。食べあとでも鳥の種類がわかるんだ、と感心しきり。それから、ヤブツバキの花や、青いハンガーを利用したカラスの古巣を眺めながら林を抜け、カンコ池に到着。この池は数年前にクイナがやって来たり、オオバンが来たりと、貝塚市のバードウォッチャーには小さいながらも面白い池として注目されています。この日はたくさんのカイツブリがいました。カンコ池は養魚池で、池の上にカワウよけの紐が張られています。和田学芸員から、こうした池にはカイツブリが集まりやすい、と説明がありました。ツートンカラーのカモ・キンクロハジロや、バンを眺め、飛び回るカワセミのつがいを観

察してから、また千石荘に戻りました。養護学校のわきを抜けてゆくと、校庭ではツグミ、シロハラが地面で餌を探していました。鳥の食事場所は季節ごとで変わるそうです。秋の初めは林の中で木の果実を食べている鳥たちが、年が明けると地面に降りて虫を食べ始めます。いまは地面でいろいろな鳥を見やすい時期だ、と和田学芸員が説明してくれました。木の実の殻に注目していると、セミが這い出してきたあとの穴の中で、ヌマガエルが一匹越冬しているのが見つかりました。

養護学校の向かいの雑木林をつきぬけ、大井谷池横の畑まで移動しました。子どもたちはちょっとした探検気分、ひざまで落ち葉に埋もれながら歩いていました。

畑では、上空を通過するミサゴ、枝から枝へで移動するアトリの群れや、今年観察され、大井谷池横の草地でしか見られないという珍しいホオアカを2羽見ました。

お昼前にいったん解散したあと、午後、希望者だけで近木川河口にでかけました。山の鳥を見たあとに、海や河口の鳥を見られるのも貝塚市ならではの。それほど多くはありませんでしたが、ヒドリガモやウミアイサ、イソシギ、ハマシギ、せわしなく走り回るシロチドリなどが観察できました。河口ではダイサギが丸くふくらんで抵抗するクサフグを丸呑みにしようがんばっていて、毒があるのに大丈夫？とみんなで心配しました。ヨシ原ではメジロが一羽混じったオオジュリンの群れが草の中の虫を盛んについばんでいました。

観察できた野鳥

【千石荘病院跡】

カワウ、アオサギ、トビ、ミサゴ、オオタカ♀、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、シメ（食べあと）、ムクドリ

【カンコ池】

カイツブリ、ゴイサギ（仔）、アオサギ、ダイサギ、キンクロハジロ、バン、カワセミ



イソヒヨドリの♀。二色浜にて

【近木川ヨシ原】

コガモ、カワセミ、オオジュリン、メジロ、シメ（セッカを見たという人も）

【二色浜】

カワウ、アオサギ、ヒドリガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ウミアイサ、シロチドリ、イソシギ、ドバト、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、イソヒヨドリ、ムクドリ

（白木 江都子・西澤 真樹子）

自然遊学館の友だち集まれ

場所：自然遊学館多目的室

日時：2009年3月28日(土) 12:00～15:30

参加者：10名

自然遊学館に生き物が大好きな子ども達が集まり、楽しい時間を過ごしました。

まず初めに、皆でご飯にしました。岬町で採れた野草や魚のてんぷらです。野草はウシハコベ、カラスノエンドウ、レンゲソウ、アサツキ、ヨモギ、ツクシ、セリ、ナタネ、フキの葉、タラの芽でした。館長が次々に揚げたてのてんぷらをもってきてくれ、腹ごしらえは万全です。特にガッチョという魚のてんぷらが人気でした。



熱々あげたて野草てんぷら

ごはんを食べ終えた後は、発表会です。江本大地さん(貝塚市立北小3年)は、串本の海岸などで集めたタカラガイの仲間が32種になり、そのうちハチジョウダカラという種類が最も気に入っているという報告をしてくれました。喜多悠香さん(岸和田市立大田小3年)は、津田川、千石荘、蜻蛉池公園で見つけた鳥のリスト、写真、イラストを発表してくれました。品田こうきさん(4歳)は、海の行事に参加した時に、ヤドカリが好きで、フグがふくれたことが面白かったこと、海藻を食べたことなどを

話してくれました。

次に、みんなで楽しくゲームをしました。まず初めに、昆虫の仲間分けゲームです。たくさんの昆虫の顔だけの写真を、バッタ・コオロギ・キリギリスの仲間に分類します。実は我々にとっても昆虫の顔の写真だけでその昆虫の種類を見分けるのは至難のわざなのですが、ゲームを通じてバッタやコオロギ、キリギリスの体つきの違いを学習しながら楽しく遊べました。

仲間分けゲームの次は、すごろくをしたり、かるたをして遊びました。もうすぐ幼稚園になる子から小学校高学年の子、さらにはお母さん達まで一緒になって熱くなって楽しめました。

最後に、皆で遊学館の外、市民の森周辺でも今日食べた野草がないかと探しに行きました。天候にも恵まれ、気持ちよく散歩できました。

普段よく遊学館に遊びにきてくれる子から初めて行事に参加してくれた子まで、仲良く楽しめたと思います。是非また遊学館に遊びに来てくださいね。遊学館の生き物共々、お待ちしております。



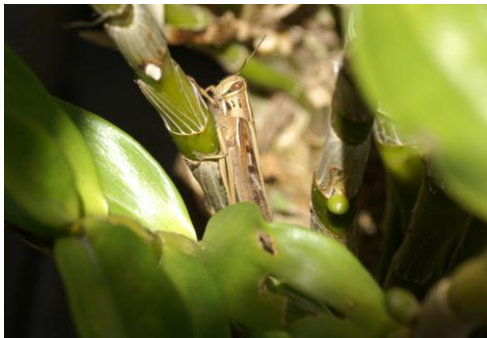
何の仲間か、分かるかな？

(岡田 恵太郎)

【泉州生きもの歳時記】

バッタの越冬

3月末、自宅で両親の“庭にトノサマバッタがいる！！”という声を聞き、そんなはずはないと思いながら指差す先を見てみると・・・そこにはツチイナゴ成虫がいました(写真)。どうやら越冬場所から出てきて、体を暖めていたようです。数日間は同じ鉢植えにいましたが、それ以降姿を消しました。このたよりを編集していた4月中旬には、遊学館で飼育しているツチイナゴが交尾をしているのを確認しました。



冬を越したツチイナゴ成虫

また、同じ4月上旬の夜に自宅の庭に出てみると、耳を突くような“ズィーーー・・・”という大きな鳴き声が聞こえました。これはクビキリギスというキリギスの仲間の鳴き声です。繁殖のために雄成虫が雌成虫を呼んでいるのです。

バッタの仲間には、いわゆるバッタとキリギス・コオロギの仲間が含まれます。3月下旬から4月中旬に確認できたこれら2種類のバッタは、成虫で冬を越し、春に繁

殖する生活を送っています。しかし、このように成虫で冬を越すバッタの仲間は、身近な種類ではツチイナゴとクビキリギスの2種だけです。ほかの多くのバッタの仲間は秋に繁殖・産卵し、卵で冬を越します。

この春に出会った2種のバッタ、“どんな場所で冬を越していたのだろうか?”、などと考えをめぐらせてみるのはなかなか楽しいことです。また、クビキリギスの鳴き声は4月中なら、夜に少し外に出てみると聞くことができます。“あっ！この虫の声だったのか！”というふうに思うかもしれません。秋の虫の音に耳を傾けると同じように、春の虫の音にも耳を傾けてみるのも楽しいかもしれませんね。

参考文献

日本直翅類学会 (2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会. 687pp.

(向井 康夫)

二色の浜の海藻

野原や公園などの陸上の木々や草花が芽吹く早春は、海の中ではすでに多くの海藻が生い茂っています。海藻と聞けばワカメやコンブを思い浮かべる方が多いですが、種類によって色や形は様々で、海藻おしばいにして楽しむことができます。今年度の自然遊学館行事として、7月にこの「海藻おしばい作り」を予定しています。

3月29日、海藻おしばい作りの講師をして頂く河原美也子さんと一緒に、二色の浜へ

行事に向けての海藻採集に行きました。この時期に採集しておくのは、行事の行われる7月では、ほとんど枯れてしまっているためです。この日は海水の透明度がよく、潮も良く引き、二色の浜では多くの方が潮干狩りに来ていました。海藻は護岸のテトラや突堤、離岸堤の場所で多く生えており、小さな海中林を形成しているタマハハキモク（ホンダワラの仲間）を一掴み採集してみると、もぞもぞとうごめく大量のワレカラやヨコエビが住みついていた。

この日採集した海藻などの種類を下に記します。海藻の持つ造形美を使って、あなたもオリジナルの海藻おしばを作ってみませんか。ご参加お待ちしております。



二色浜の突堤に沿って生える海藻

緑藻：ウスバアオノリ、アナアオサ、スジアオノリ、ミル、シオグサ科の一種

褐藻：フクロノリ、カヤモノリ、ワカメ、タマハハキモク

紅藻：マクサ、オバクサ、フクロフノリ、ムカデノリ、フダラク、カバノリ、オゴノリ、フシツナギ、タオヤギソウ

海草（うみくさ）：アマモ

（山田 浩二）

■館長コーナー

春4. 自然を食べる

去る3月28日(土)、自然遊学館年間行事を「野草を食べながら1年を振り返る」という活動で締めくくりました。自然とふれあい自然により接近するためにも自然を取り入れた活動が大切だと考えたからでした。例えば遊学館では、「打ち上げられた貝拾い」で拾った貝を紙皿に貼り付けて「貝の紙皿標本」にしたり、生き物の「切り絵」をしたり、「野鳥の写真展」などを行ったりしてきました。そうした取り組みを拡充するには「食べる」活動が第一です。

当日用意した野草は、セリ・レンゲ・カラスノエンドウ・ツクシ・ハコベ・ヨモギ・タラの芽等でした。それらをてんぷらにしていたのでした。



てんぷらの材料

下準備や実際に野草をてんぷらにしながら私はあることに気がつきました。それはもう20数年前のことです。私は貝塚市内のある小学校の教諭でした。始業時刻は8時30分です。その2時間前までに登校し、「自然生活クラブ」という4年生以上の希望者を集めて自然と取り組んでいました。その

活動の1つに「野草を食べる」というメニューを作っていました。タンポポの根をキンピラにしたり、モリアザミの根を醤油に漬けて「山ごぼう漬け」にしたり、ノビルをやいて味噌につけて食べたりもしました。一番よくしたのは「てんぷら」です。これは野草のアクを抜かないでおいしく食べることでできる最上の料理であるからです。もちろん子どもたちにも大変人気のある活動でした。だから、とうとう、土曜日(当時は学校5日制ではありませんでした)の昼に野草を摘んで食べるということにまで発展しました。



野草のてんぷら

ここまでくると私は教師としてひとつの心配を抱えました。それは子どもたちに野草には「食べられるもの」と「食べてもおいしくないもの」、「食べてはいけないもの」があることを常に教えていました。しかし、相手は子どもです。この活動の延長として自分で野草を集め「食べる」かもしれません。あるいは大人になってこの活動を思い出し、毒草を食べるかもしれません。そこで、すごくきれいに咲いているキンポウゲの花を含めて先のほうを10cmほど食べて

みました。

毒草といわれるだけにその効果は抜群です。約1ヶ月間腹痛で悩まされました。そんな私を子どもたちは毎日見ているものですから、絶対に毒草は食べないでしょう。いいことをしたような、苦しいことをしたような複雑な思いが甦ってきました。



キンポウゲ

ところで、この「野草」という言葉ですが「やそう」と読むのが一般的です。「のくさ」という言い方もあります。「のくさ」という表現は趣味的な草盆栽のような響きがあります。もちろん最近では「山野草」(さんやそう)といわれますので「のくさ」は死語に近いかもしれません。それでは「野菜」という言葉はどうでしょう。昔は八百屋さん(今でも八百屋さんはあるかもしれませんが)で売られていましたし、現在ではスーパーで販売されています。当然、野菜と発音された瞬間、野菜のイメージが出来ます。しかし、じっくりこの漢字を見ますと「野」の「菜」なのです。今では栽培された植物を「野菜」といっていますが、昔、「野菜」(という漢字があったかどうかわかりませんが)は野の菜であったはずで、私たちが

活動で取り入れた「野草を食べる」は「野の菜を食べる」であるのです。自然に生えている野草を野菜として食したのです。

さて、本館では自然を食べる活動を2回予定しています。第1回目は「テングサ」から「カンテン」を作ります。どういうことになるのでしょうか。楽しみです。



テングサ

(川村 甚吉)

ミツレ、キヌゲチチコグサ、チチコグサ

あかね科：ヤエムグラ

あかばな科：コマツヨイグサ、アレチマツヨイグサ

ごまのはぐさ科：フラサバソウ、オオイヌノフグリ、タチイヌフグリ

しそ科：ホトケノザ

むらさき科：キュウリグサ

かたばみ科：カタバミ

まめ科：カラスノエンドウ

あぶらな科：ナズナ、セイヨウカラシナ、タネツケバナ

なでしこ科：オランダミミナグサ、ハコベ

いぐさ科：スズメノヤリ

いね科：スズメノカタビラ

(湯浅 幸子)

自然遊学館で飼育している動物

自然遊学館では、主に貝塚市で採集した50種類を超える動物を飼育しています。館内に入ると大きな水槽1個と小さい水槽2個があり、そこには大阪湾周辺で見られる魚類などを飼っています。海で採集してきた野生動物なので飼うのは難しく、死んでしまう事もあります。好きな餌と嫌いな餌があるようで、餌をやる時も注意が必要です。先に進むとカニの水槽があります。そこではアカテガニ、ハマガニ、クロベンケイガニを飼っています。この3種類は9月の行事カニ釣りで捕まえたものです。奥の水槽にはハクセンシオマネキを飼っています。

■ 展示紹介

自然遊学館周辺の植物

2009年1月～3月に展示した植物

寒い冬の間も、日当たりのいい空き地などでは、春の植物が芽をだしています。2月になると、もうカラスノエンドウやヤエムグラが小さく寒そうにゆれています。冬のさなかですが、「春が来る」のを感じます。

きく科：ハルジオン、ヨモギ、チチコグサ
モドキ、ナルトサワギク、マメカ

でも巣穴に潜っていることが多く、なかなか見ることができません。

さらに進むと近木川下流域に生息している生物を飼育しています。今はギンブナやコイがほとんどです。その奥には、近木川中・上流域の水槽があります。今はカワムツがほとんどで、タカハヤが少しいます。

展示室にはカメ水槽があり、近木川に生息しているクサガメやミシシippアカミミガメを飼っています。六角水槽ではアオダイショウを飼っています。今年は冬眠をしなかったことが分かりました。標本の奥に行くとオオゴキブリを飼っています。森や山の朽ち木の中で生息している種類です。横に進むとニホンヒキガエルを飼っています。貝塚市の馬場と大川で採集されたものです。その下のケースにはウシガエルが入っています。ウシガエルは特定外来種に指定されていて、近畿地方環境事務所に許可をもらい飼育しています。また、アメリカザリガニは要注意種に指定されていて、特定外来種に入るかは検討中だそうです。これだけは来館者のみなさんに触ってもらえるようにしています。



ニホンヒキガエル (貝塚市大川産)

展示ホールの奥の六角水槽では、昆虫とカタツムリを飼育しています。冬の間は飼育できる昆虫が少なく、毎年、ツチイナゴとクビキリギスになってしまいます。これらは成虫で冬を越す種類です。カマキリの卵からはもう幼虫が孵りました。

六角水槽の回りでは、カエルや魚類を飼っています。両生類は、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、ヌマガエル、トノサマガエル等を展示しています。シュレーゲルアオガエルは、貝塚では大川で生息が確認できます。魚類は、川や池で採集してきたドジョウ、ウナギ、ウキゴリ、モツゴ、タモロコ、ドンコ、カワアナゴ等を飼育しています。ドンコは、近木川の上流で、岩の隙間に隠れて生息しています。他にも、ギギやカワバタモロコ等、貝塚以外で採集したものも少し展示しています。

(鈴子 勝也)

■寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2009年3月分まで)

<哺乳類>

◆藤村雅志さんより

ヒミズ 死体1点

貝塚市千石荘 2009年3月1日採集



ヒミズ

<鳥類>

- ◆石井翔生愛さんより
シロハラ 死体 1点
貝塚市蕎原 2009年1月6日採集
 - ◆食野俊男さんより
カルガモ 死体 1点
近木川河口 2009年1月23日採集
 - ◆川口博さんより
カワラヒワ 巢 1点
二色の浜 2009年1月30日採集
 - ◆河野道浩さんより
ウグイス 巢 1点
貝塚市蕎原 2009年2月15日採集
 - ◆松下宏幸さんより
オオタカ 死体 1点
近木川河口 2009年3月1日採集
 - ◆藤村雅志さんより
カワウ 死体 1点
貝塚市千石荘 2009年3月7日採集
 - ◆綿石紀代さんより
ヤマドリ 剥製 1点
データ不明
- ### <両生類>
- ◆芝田健人さんより
イモリ 成体 2点
貝塚市木積 約2年前に採集

<魚類>

- ◆川口達也さんより
ウナギ 幼魚 1点
近木川河口 2009年2月4日採集
- ◆川口優志郎さんより
オヤニラミ 幼魚 2点
和歌山県かつらぎ町 2008年9月10日採集

<軟体動物>

- ◆河野道浩さんより
ミヤコボラ 1点
男里川河口 2009年2月7日採集
- ◆林秋月さんより
ナミコギセル 20点
貝塚市窪田 2009年2月12日採集

<棘皮動物>

- ◆河野道浩さんより
ヒラタブンブク 1点
男里川河口 2009年2月7日採集

<環形動物>

- ◆江本大地さんより
ウミケムシ 1点
男里川河口 2009年2月21日採集

<甲殻類>

- ◆江本大地さんより
ヨツハモガニ 成体 7点
コブカニダマシ 成体 1点
フタバベニツケ 成体 1点
男里川河口 2009年2月11日採集

- ◆鈴子佐幸さんより
オオシロピンノ ♀1、♂5
男里川河口 2009年2月22日採集

<昆虫>

- ◆用松春也さんほか6名より
コガタズメバチ 巢1点
貝塚市二色 2009年1月13日採集
- ◆石井翔生愛さんより
フタモンアシナガバチ 巢1点
貝塚市堤 2009年2月1日採集
- ◆渡辺久和さんより
コウチュウ類 幼虫5点
和泉市葦部 2009年2月7日採集
- ◆五藤武史さんより
タマムシ科 幼虫1点
紀ノ川市桃山 2009年2月8日採集
- ◆五藤武史さんより
ユーカリカメノコハムシ 成虫1点
堺市浜寺公園 2009年2月11日採集
- ◆北川敏喜さんより
スズバチ 巢3点
泉佐野市上之郷 2009年2月17日採集

<写真>

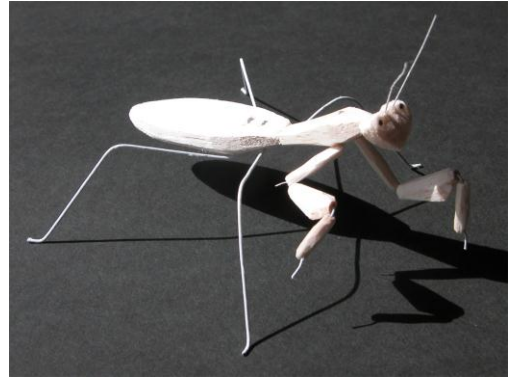
- ◆五藤武史さんより
ツクシガモ 1枚
貝塚市小瀬：津田川
2009年1月27日撮影
オオタカ 1枚
貝塚市名越：千石荘
2009年2月2日撮影
- ◆藤村雅志さんより
アカゲラ 2枚
貝塚市千石荘 2009年2月11日撮影

- ◆食野俊男さんより
シロエリオオハム 1枚
貝塚市地藏堂：永寿池
2009年1月5日撮影
ツクシガモ 1枚
貝塚市小瀬：津田川
2009年1月26日撮影
シメ 1枚
貝塚市二色：近木川
シロハラ 1枚
貝塚市二色 2009年2月9日撮影
ビンズイ 1枚
貝塚市二色 2009年2月9日撮影
オオジュリン 1枚
貝塚市二色：近木川
2009年2月12日撮影
オカヨシガモ♂、♀ 各1枚
貝塚市二色 2009年2月7日撮影
ヒドリガモ♂、♀ 各1枚
コガモ♂、♀ 各1枚
貝塚市二色 2009年2月9日撮影
ホシハジロ♂、♀ 各1枚
オナガガモ♂ 1枚
貝塚市二色 2009年2月12日撮影
オオタカ 1枚
貝塚市千石荘 2009年3月12日撮影
ホオアカ 1枚
貝塚市千石荘 2009年3月19日撮影
イカル 2枚
貝塚市千石荘 2009年3月21日撮影
ヤマガラ 2枚
貝塚市馬場：農業庭園たわわ
2009年3月24日撮影

■ごあいさつ

虫が好きになると

小学校に行く前から虫が好きになって、もう何年も経ってしまいました。今でも夏の晩に懐中電灯を持って雑木林に入り、カブトムシやクワガタムシがたかっているのを見ると、ドキドキするのです。それで、虫を好きになった理由を今から考えてみると、幼少の頃、家の近くの草むらでセイタカアワダチソウにとまるオオカマキリのオスの姿に心が動いたことを思い出します。美しいと思いました。ずっと好きでいる理由は、後付けになりますが、いろいろ考えられます。バッタやカマキリの仲間だと、適度な大きさや硬さ、姿の美しさなどでしょうか。鎌や翅などのパーツも魅力的です。草むらの中で「獲物」を見つけた喜びが忘れられないということもあります。硬さというのも、いじって遊ぶ時に重要な要素になります。ガヤクモのぷにぷにした感触では、そういう気になりません。田んぼの穴に手を突っ込んで取ったアメリカザリガニは十分な硬さです。形もとても魅力的です。捕まえる楽しみもあります。でも、庭のない団地に住んでいたのも、家の中で遊ばせることができませんでした。

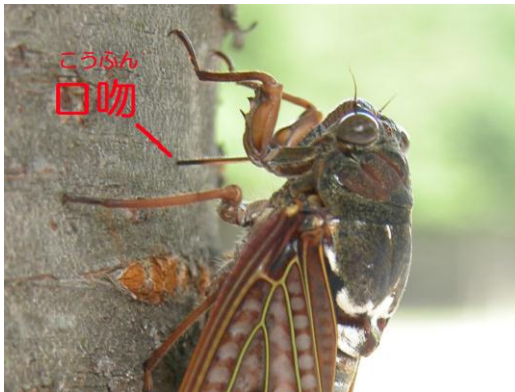


♡ カマキリフィギュア ♡
(材料はバルサ材と針金です)

アルバイトとしては、もう 10 年以上も前から、貝塚市の昆虫の調査をしてきました。調査はまず、**場所選び**から始まります。近木川の水生昆虫の調査は 12 年目になりました。去年は他に、和泉葛城山の山頂付近で調査をしました。冷涼な山頂のブナ林に適応した虫たちは、温暖化が進行すると生きていけなくなるかもしれません。そういう意味で、貝塚市内でも最も注意を払うべき場所です。できれば、「いた／いない」という記録だけでなく、どれだけいたのかという「量」の記録もあることが望ましいでしょう。でも、他の仕事が忙しく、結局 4 回しか行けませんでした。

場所選びの次は、**現地調査**です。自然遊学館に標本がない種を見つけたら、少数の個体を採集します。その他、目で見て種が分かる場合は採集しないで、写真を撮影します。カメラはコンパクト型のデジカメを使っています。技術がない分、撮影は「博打」になります。でも、50 枚も撮れば、2、3 枚は出来のいい写真が撮れます。自宅に帰って酒を飲みながら、その日に撮った写

真をパソコンの画面上で眺めていくのは、けっこう楽しい作業です。博打というのは下手だからこそ面白いのでしょう。その際には肉眼では見えていなかった、虫たちの意外な美しさや生態を発見することもあります。植物の写真を撮った時もそのような場合があります。ただ、風景写真に感動することはありません。虫の眼になっているのかもしれませんが。なので、意外に調査場所の景観写真を撮っていないと、それは反省すべき点です。特に草むらの写真がほとんどないことに最近気がつきました。



アブラゼミの口吻

(水間公園 2004年8月7日撮影)

撮影するまでは、もっと下向きに差していると思いついていました。

その次は**同定**と**標本作り**です。同定とは種類調べのことです。最近と同定のための資料が豊富になって助かっています。それでも専門の先生方にみていただかないといけない時もあります。標本作りは時間とスペースがあれば、本来は楽しいかもしれない作業なのですが、今は余裕がないので、完璧な標本は中々作れていません。最小限の出来だと思えます。

この先からはますます楽しさが失われる作業で、**データ入力**と**解析**が待っています。毎年出している当館の活動報告書(「貝塚の自然」)も、ついつい発行が遅れがちになります。出来上がった標本は館内で**展示**する場合もありますし、標本棚の標本箱に**収納**することもあります。その収納スペースが残り少なくなっているため、先に言ったように、標本がない種を少数だけ採集するということにならざるを得ないのです。

このように、現地調査の際に、標本作り、データ入力、解析、報告書、収納など、色々な事を考えながら観察や採集をすることになり、小学生の時のような採集の楽しみは随分と減ってしまいました。こういう人間がこの4月から週5日、常勤職員として働くことになりました。どうぞよろしく願います。

(岩崎 拓)

■ありがとう

2008年11月9日に貝塚市蓄原箱谷で当館スタッフの山田浩二が採集した体長10cmを越える大きなミミズが、フトミミズ科 Megascolecidae の「ノラクラミミズ *Metaphire megescolidioides*」であることが分かりました。

同じくフトミミズ科のシーボルトミミズの系統地理学とフトミミズ科の分類を研究しておられる愛媛大学大学院の南谷幸雄さんに同定していただきました。ありがとう

ございます。

シーボルトミミズは自然遊学館のホームページに掲載しているように青く光っていて区別できるのですが、ノラクラミミズはふつうのミミズの色をしています。地中の深い所に生息していて、雨の後に地表に出てくる程度で、なかなか目にする機会が少ないそうです。



蕎原箱谷で採集されたノラクラミミズ

南谷さんは研究材料として大型のミミズの標本を集めておられるので、もし貝塚市内でそのようなミミズを見つけた方がおられたら、自然遊学館へ連絡ください。

今回、南谷さんを紹介していただき、標本の郵送など便宜を図っていただいた奈良教育大学の田村芙美子さんに謝意を表します。

(岩崎 拓)

2009年3月1日正午前、報告書「貝塚の自然第11号」掲載記事の編集作業を終えて帰られたはずの松下宏幸さんが、再び事務所入り口に立っておられる。「忘れ物ですか？ どうかしました？」と伺ったが、笑うような引きつるような興奮した面持ちで何も言われない。右手に持ったポリ袋を掲げながら、つかつかと入ってこられ、ポリ

袋を下に置き、さっと開けられた。かなり大きい鳥の死体だった。「えっ？」松下さんの興奮が瞬時に伝わりました。その辺にいる鳥ではありません。「これは、もしや」「そう、オオタカや」松下さんが絞り出すような声で答えられました。「うそ！」事務所にいたスタッフがみんな出てきて回りを取り囲み、松下さんに質問し、計測し、カメラを取り出し大騒ぎになりました。

生きもの探し大好きの松下さんが、自然遊学館を出て二色浜公園内近木川河口にかかる潮騒橋の下で、たまたま見つけられたのです。極めて数少ない猛禽類が、目立った外傷もなく、死んでいたことは残念ではありません。けれど死体が松下さんの目にとまったことは不幸中の幸いで、この不運なオオタカは自然遊学館に寄贈され、後に剥製でお目見えすべく、西尾製作所に送られました。



近木川河口で拾われたオオタカ死体

オオタカの興奮が冷めやらない同じ日の夕刻、バードウォッチャーの藤村雅志さんからお電話があり、遠慮がちに「小さなモグラのような動物死体を拾ったけれど、要りませんよね」と。「いえいえ、哺乳類担当者が大喜びします。欲しいです」とお願い

したらわざわざ届けに来てくださいました。

貝塚市名越の千石荘バス停から泉佐野市七山へぬける細道で拾われたそうで、小さなモグラのような動物はヒミズでした。他の動物や昆虫によって食べられ朽ちてゆくのも自然でしょうが、このように傷んでいない生物死体を拾ってくださり、寄贈していただけるのは、フィールドになかなか出る機会のないスタッフにとっては、願ってもないありがたいことです。

松下さん、藤村さん、本当にありがとうございました。

(白木 江都子)

■おしらせ

生き物切り絵展 開催中

生き物を題材にした切り絵を約 70 点展示しています。ぜひ足をお運びください。

場所：自然遊学館多目的室

期間：4月4日～5月17日



(川村甚吉作)

☆ 開館時間が変わります

4月1日から自然遊学館の開館時間が変わりました。年間を通して、以下の通りです。

月・木・金曜日 午前9時～午後5時

水・土・日曜日 午前9時～午後9時

火曜日 休館日 (祝日の場合は翌日が休み)

年末年始の休み 12月30日～1月4日

★「貝塚の自然」第11号発行

自然遊学館の2007年度の活動報告書が3月31日に発行されました。自然遊学館のほか、貝塚市民図書館や近隣の図書館、市内の公民館でご覧になれます。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2009 春号 (No. 51)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/index.htm>

発行日 2009. 4. 22

この小冊子は市内印刷で作成しています。